

◆平成30年度各会計決算状況

項目	最終予算額	歳入	歳出	差引残高	
一般会計	178億2,788万円	172億7,868万円	171億6,319万円	1億1,549万円	
特別会計	介護保険	25億3,590万円	25億3,863万円	23億9,906万円	1億3,957万円
	国民健康保険	31億4,400万円	30億8,632万円	30億6,978万円	1,654万円
	後期高齢者医療	3億8,432万円	3億8,085万円	3億8,033万円	52万円
	農業集落排水	3億4,323万円	3億4,858万円	3億3,844万円	1,014万円
	下水道	7億1,530万円	7億1,974万円	6億8,673万円	3,301万円
	計	71億2,275万円	70億7,412万円	68億7,434万円	1億9,978万円
合計	249億5,063万円	243億5,280万円	240億3,753万円	3億1,527万円	

◆財産の状況

▼各基金の現金保有額(平成30年度末現在)

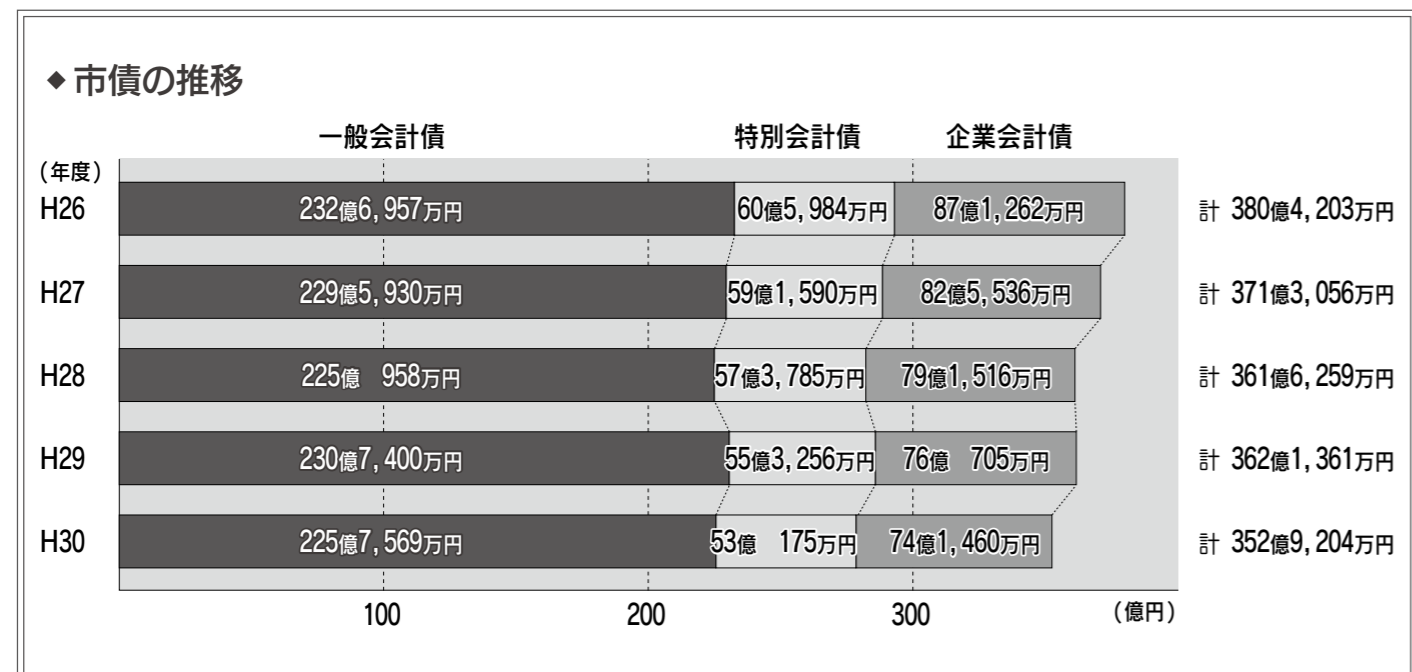
基金の名称	金額
財政調整基金	5億 518万円
減債基金	6億 964万円
公共施設整備基金	5億2,605万円
土地開発基金	2億4,814万円
人材育成基金	6,476万円
社会福祉振興基金	4,457万円
その他(11基金)	4億 233万円
合計	24億 67万円

▼その他の財産の保有状況(平成30年度末現在)

区分	数量	説明
土地	3,031万5,645㎡	施設用地・山林など
建物	20万7,486㎡	市役所庁舎・学校・体育館などの建物
物権	12万9,537㎡	地上権
有価証券	1,532万円	株券
出資金	2,076万円	関係団体等出資金
債権	1億8,118万円	長期貸付金など
物品	68台	車両

※基金とは一般家庭の預貯金に当たるものです。
このうち一般会計が保有する積立基金は18億2,969万円です。

◆市債の年度末残高の状況



深川市の財政事情

市では、財政の状況を市民のみなさんに理解してもらうため、条例に基づき年に2回財政の状況を公表しています。2回目の今回は、平成30年度決算の概要と令和元年度予算の執行状況などをお知らせします。

平成30年度決算の概要

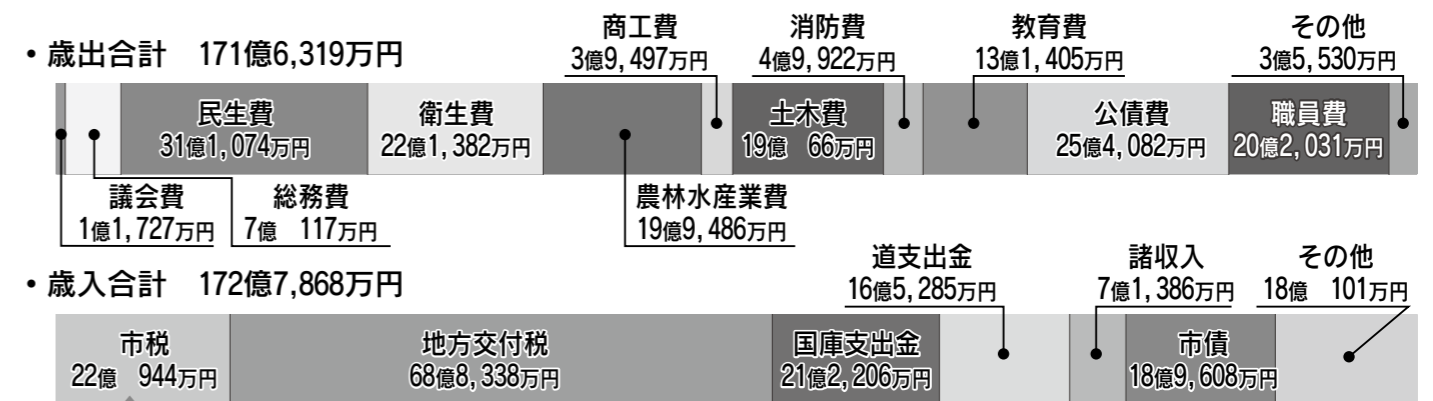
市の一般会計と特別会計を合わせた平成30年度の歳入決算額は243億5,280万円、歳出決算額は240億3,753万円です。差し引き3億1,527万円の黒字となり、翌年度に繰り越した事業に充てる48億2,500万円を差し引いた実質的な黒字は2億6,702万円となりました。

このうち一般会計の歳入決算額は172億7,868万円、歳出決算額は171億6,319万円です。差し引き1億1,549万円の黒字となり、翌年度に繰り越した事業に充てる48億2,500万円を差し引いた実質的な黒字は672,400万円となりました。

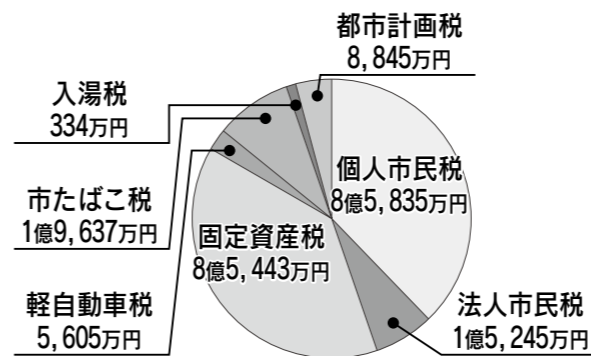
平成30年度決算の健全化判断比率などを道内各市と比較した場合、本市の財政状況は依然として厳しい状況にあり、令和元年度においても、限られた財源の中で、より一層の効率的な執行と経費の節減に努め、財政の健全性の維持に努めます。



◆一般会計決算の状況



◆市税の内訳



◆市民1人あたりでは

一般会計歳出額	基金残高	市税負担額	市債残額
839,400円	117,400円	108,100円	1,726,100円
議会費	5,700円	土木費	93,000円
総務費	34,300円	消防費	24,400円
民生費	152,100円	教育費	64,200円
衛生費	108,300円	公債費	124,300円
農林水産業費	97,600円	職員費	98,800円
商工費	19,300円	その他	17,400円

▲平成31年3月31日現在の人口(20,446人)を基に算出

- 費用の使い道
- ◆議会費
 - ◆議会運営など
 - ◆総務費
 - ◆市の総務管理など
 - ◆民生費
 - ◆高齢者対策や児童福祉など
 - ◆衛生費
 - ◆市民の健康や環境の保全など
 - ◆農林水産業費
 - ◆農林業の振興や生産基盤整備
 - ◆商工費
 - ◆商工業や観光の振興
 - ◆土木費
 - ◆道路や公園、市営住宅などの整備
 - ◆消防費
 - ◆消防や防災など
 - ◆教育費
 - ◆小中学校の運営や生涯学習の推進
 - ◆公債費
 - ◆借入金の返済
 - ◆職員費
 - ◆市職員の給与など
 - ◆その他
 - ◆災害復旧など

分かりやすい決算書

市の決算を分かりやすく説明した、平成30年度「深川市の今年のごとー決算編ー」を市役所と各支所で閲覧できます。また、希望する方に配布しますので、企画財政課財政係に連絡してください。

市のホームページにも掲載しています（「深川市の今年のごと」で検索してください）。



予算や決算、
財政運営に関する問合せ先
企画財政課財政係
(☎26-2622)



▼健全化判断比率の対象

会計の区分	比率の名称	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率	資金不足比率
		○	○	○	○	○
一般会計		○	○	○	○	
特別会計	介護保険 国民健康保険 後期高齢者医療			○	○	○
	公営企業会計 水道 市立病院 農業集落排水 下水道			○	○	○
一部事務組合・広域連合	消防組合 葬斎組合 衛生センター組合 空知教育センター組合 広域水道企業団 廃棄物処理広域連合 学校給食組合			○	○	
公社・第3セクターなど	振興公社など				○	

※「○」が比率の対象となる会計。「資金不足比率」は会計ごとで算定する。

◆「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の健全化判断比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律では、自治体は4つの健全化判断比率と公営企業ごとの資金不足比率を公表し、これらの比率が健全化基準を上回った場合、健全化計画の策定が義務付けられています。

本市の平成30年度決算の健全化判断比率は、下記のとおりいずれも早期健全化基準を下回っています。

また、公営企業会計が対象の資金不足比率については、病院事業会計で資金不足が発生していますが、経営健全化基準を下回っています。

◆ 財政の健全性を示す5つの指標

実質赤字比率

一般会計などの赤字額を標準的な一般財源（標準財政規模）で割ったもので、一般会計などの赤字額の割合を示す指標。

連結実質赤字比率

一般会計、特別会計、公営企業会計の赤字額の合計を標準的な一般財源（標準財政規模）で割ったもので、市全体の赤字額の割合を示す指標。

実質公債費比率

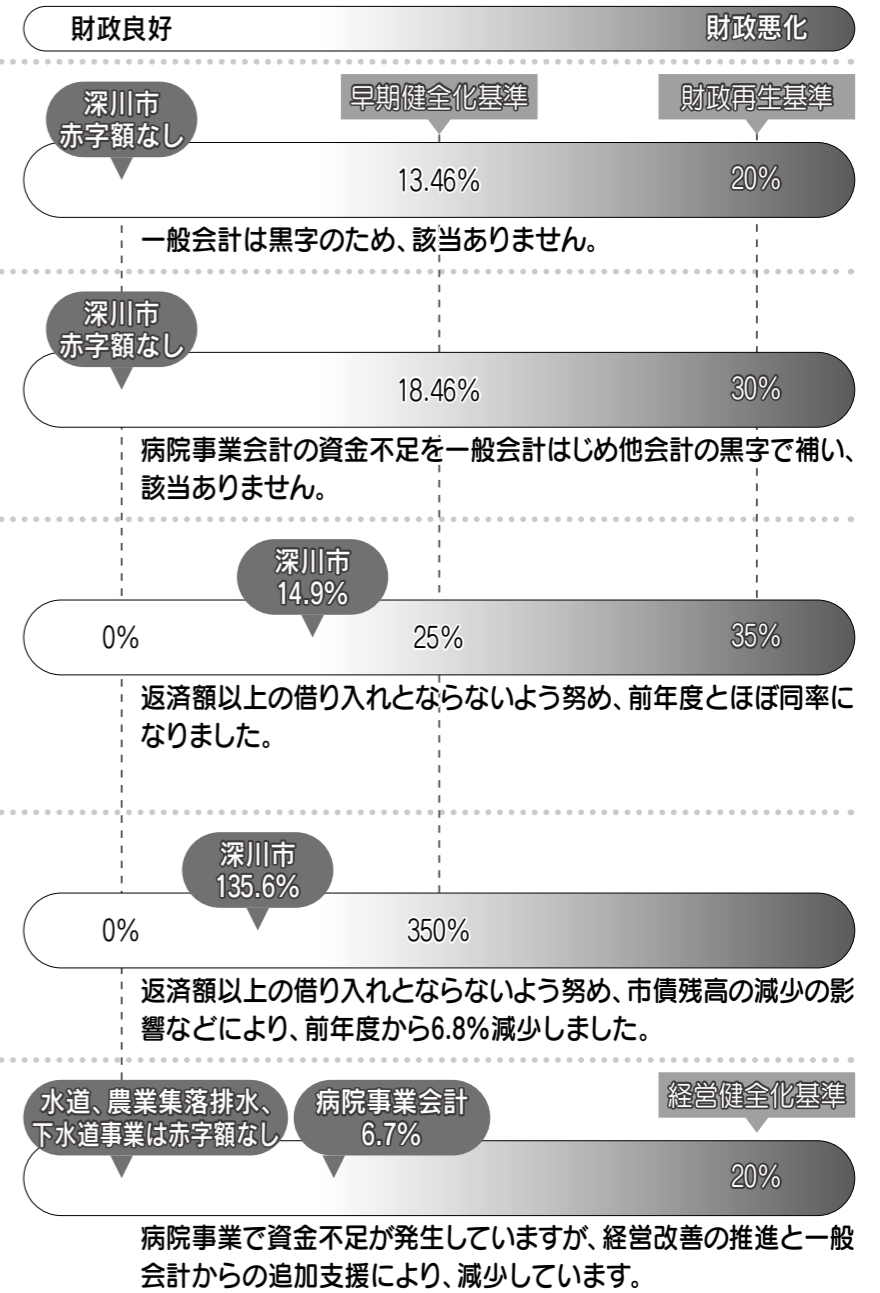
自治体の標準的な一般財源（標準財政規模）に対する借入金の返済額などを表す指標。自治体の自由に使えるお金が、借入金の返済にどの程度使われているかを示すもので、割合が高ければ自由に使えるお金が少ないことを示す指標。

将来負担比率

一般会計、特別会計、公営企業会計に、一部事務組合・広域連合、公社・第3セクターを含め将来負担しなければならない全体像を示す指標。

資金不足比率

市立病院や水道事業などの公営企業に適用する指標。資金不足は、1年以内に支払いを要する費用から手持ちの現金や預金を差し引いたもので、足りない場合に資金が不足することになります。



◆令和元年度予算の執行状況

令和元年度各会計予算の執行状況は、9月末までの実績です。執行状況は一般会計と特別会計の合計で歳入39.0%、歳出39.4%の執行率となっており、統合保育園と子育て支援センターの建設、市営住宅・道路・下水道の整備などの事業を進めています。

▼令和元年度各会計予算の執行状況(9月30日現在)

項目	予算額	歳入	執行率	歳出	執行率	
一般会計	181億2,398万円	73億3,476万円	40.5%	72億5,998万円	40.1%	
特別会計	介護保険	25億6,895万円	11億9,265万円	46.4%	10億1,734万円	39.6%
	国民健康保険	30億8,500万円	10億2,909万円	33.4%	11億5,074万円	37.3%
	後期高齢者医療	3億8,223万円	1億 197万円	26.7%	9,589万円	25.1%
	農業集落排水	2億3,760万円	2,538万円	10.7%	6,948万円	29.2%
	下水道	7億5,070万円	1億2,251万円	16.3%	3億2,386万円	43.1%
	計	70億2,448万円	24億7,160万円	35.2%	26億5,731万円	37.8%
合計	251億4,846万円	98億 636万円	39.0%	99億1,729万円	39.4%	

※予算額には平成30年度からの繰越額を含みます。一時借入金はありません。

◆健全化判断比率の全道の状況

▲下記の数値は、速報値のため、今後変更となる場合があります。

▼実質公債費比率の高い市

1	2	3	4	4	6	7
夕張市	由仁町	網走市	江差町	西興部村	岩内町	深川市
71.8%	17.9%	17.2%	16.7%	16.7%	15.2%	14.9%

▼将来負担比率の高い市

1	2	3	4	5	6	7	8	9
夕張市	岩内町	網走市	由仁町	北見市	士別市	弟子屈町	美瑛市	深川市
440.2%	166.4%	155.6%	150.1%	143.8%	143.0%	138.6%	135.9%	135.6%

※地方債の発行が許可制となる18%以上の市は、道内35市のうち1市。

※早期健全化基準の350%を超える市は、道内35市のうち1市。



水道事業会計

平成30年度事業の概況

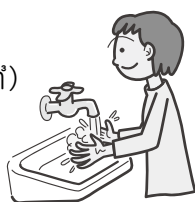
配水管の新設や道路改良事業に伴う移設工事などを施工し、配水管網の整備と給水サービスの向上を図り、安定した水の供給に努めました。

中でも、平成29年度より進めた更進(北)地区給水区域拡張事業の最終年度として、道道旭川芦別線の配水管布設工事を実施し、各戸への給水を開始しました。

●給水人口 19,694人(市民全体の96.3%)

●給水戸数 9,417戸

●年間総配水量 205万4,286m³
(一日平均 5,628m³)



平成30年度決算の状況

収益的収支で1,138万円の純損失が生じ、前年度繰越欠損金 4億3,042万円と合算し、4億4,180万円を未処理欠損金として翌年度へ繰り越しました。また、資本的収支の不足分は、過年度分損益勘定留保資金で補填(ほてん)しました。

収益的収支決算額

収入	5億8,614万円
支出	5億9,752万円
差引	▲1,138万円

資本的収支決算額

収入	2,027万円
支出	7,885万円
差引	▲5,858万円

令和元年度予算の執行状況(8月31日現在)

収益的収支

	予算額	執行額	執行率
収入	6億3,020万円	2億3,421万円	37.2%
支出	7億 520万円	1億3,652万円	19.4%

資本的収支

	予算額	執行額	執行率
収入	5,770万円	0万円	0.0%
支出	1億1,310万円	69万円	0.6%

※決算額に消費税および地方消費税は含まませんが、執行状況は税込額となっています。



病院事業会計

平成30年度事業の概要

地域包括ケア病棟の順調な運用やDPC(包括医療費支払制度)導入による入院診療単価の向上などにより、医業収益が増加しました。また、IQ(医療の質の向上)委員会による収益改善の取り組みを継続するとともに市立病院新改革プランの着実な実行に努めました。

また、入院の延べ患者数は前年度比1.7%の減となりましたが、収益では1億3,077万円の増、外来の延べ患者数は前年度比1.0%の増となりましたが、収益では3,149万円の減となりました。昨年度に引き続き市立病院経営改革特別支援事業出資金もあり、資金不足額は2億8,692万円解消し、2億5,055万円となりました。

●病床数 203床(実稼働183床)

●患者数 入院 延べ 59,082人(1日平均161.9人)
外来 延べ 115,685人(1日平均474.1人)

平成30年度決算の状況

収益的収支で1億8,719万円の純損失が生じ、前年度繰越欠損金91億9,382万円と合算し、93億8,101万円を未処理欠損金として翌年度へ繰り越しました。



収益的収支決算額

収入	41億6,785万円
支出	43億5,504万円
差引	▲1億8,719万円

資本的収支決算額

収入	8億6,233万円
支出	7億6,535万円
差引	9,698万円

令和元年度予算の執行状況(8月31日現在)

収益的収支

	予算額	執行額	執行率
収入	42億8,007万円	18億3,797万円	42.9%
支出	45億2,765万円	14億 240万円	31.0%

資本的収支

	予算額	執行額	執行率
収入	8億3,612万円	2億8,585万円	34.2%
支出	10億2,045万円	3,193万円	3.1%

用語解説

◇収益的収支

事業の経営に係る収入と支出で、水道事業では、水道料金や一般会計からの繰入金などの収入と、北空知広域水道企業団からの水の購入代金や維持管理費などの支出で構成されています。病院事業では、診療収入や一般会計からの繰入金などの収入と、人件費や材料費、維持管理費などの支出で構成されています。

◇資本的収支

経営基盤強化など、事業の投資に係る収入と支出で、収入は国・道補助金や企業債などで、支出は施設設備の拡張・改良工事費や企業債の元金償還金などで構成されています。

◇損益勘定留保資金

収益的収支の経費のうち、減価償却費など現金支出を伴わない費用の合計額をいいます。内部留保資金として、別途使うことができます。なお、その発生時期によって、当年度と過年度に分けられます。

